会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	第2回 姫路市スポーツ推進計画検討会
2 開催日時	令和6年8月28日（水曜日） 10時00分～12時05分
3 開催場所	姫路市役所本庁舎10階 第2会議室
4 出席者又は欠席者名	（出席者）別紙1参照
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、0人
6 議題又は案件及び結論等	<ol style="list-style-type: none">1 計画素案（第1，2章）の修正点2 計画素案（第3，4章）の確認
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙2参照

姫路市スポーツ推進計画検討会構成員名簿

(敬称略)

	氏 名	肩書等
出席	末井 健作	兵庫県立大学名誉教授
出席	松本 直子	姫路市スポーツ協会 副座長
出席	恒木 克仁	姫路市スポーツ推進委員会 座長
出席	早藤 卯人	兵庫県高等学校体育連盟西播支部 理事長
出席	内海 雅章	姫路市中学校体育連盟 座長
出席	田中 彰子	姫路市小学校体育連盟 副座長
出席	平山 秀子	姫路市立幼稚園健康推進連盟 理事
欠席	小林 弘子	特定非営利活動法人 姫路市身体障害者福祉協会 副理事長
出席	合田 勝彦	姫路商工会議所 専務理事
出席	岸田 直美	一般社団法人日本女子サッカーリーグ 理事
出席	天野 宏信	公募市民
出席	山本 裕子	公募市民

	<p>1 開会 (10:00)</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 計画素案 (第 1, 2 章) の修正点</p>
委員	<p>PDCA の観点からも、第 1 期計画の評価が追加されたことは良いと思うが、事実の列挙になっている。評価は、数値化された目標に対してなされるべきだと思う。数値化が困難なものは、定性的な評価でも良いと思う。</p>
事務局	<p>次期計画では、実施計画の中で PDCA サイクルを回し、評価していきたい。</p>
座長	<p>事務局で保有している各種データを用いてどう評価していくか、文章として必要であると感じる。</p>
委員	<p>素案 3 ページの特定の項目のみに “Well-being” と記載されているが、もっと幅広い概念であり、他の項目にも係ってくるので記載は不要と感じる。</p> <p>(2) 計画素案 (第 3, 4 章) の確認</p>
委員	<p>基本理念案はビジョンが見えづらいと感じる。市民に訴えていく理念であれば、現計画の「誰もが気軽にスポーツに関わり合いを持てる…」の方が、様々な世代にとって賑わいのあるまちづくりをイメージしやすいと思う。</p>
委員	<p>地域のスポーツ行事では、老人クラブが主体のグラウンド・ゴルフは右肩上がりだが、ママさんバレーボールや男性ソフトボールは苦しい状況である。元々、30 歳以上の年齢制限を設けていたが、参加チームが次第に減少してきたため 28 歳まで引き下げ、チーム数の確保に努めている。</p> <p>また、計画素案に「スポーツクラブ 21 の活性化」との記載があるが、地域によって温度差があり横並びでの進行が難しく、現場としては四苦八苦している。</p> <p>スポーツ協会ではどのような状況か。</p>

事務局

各スポーツ競技団体において報告いただいている。各団体で増減がある。

委員

基本理念案の「スポーツ交流都市」と「賑わいのあるまち」は同じ意味の繰り返しではないか。また、「交流」とは、市内の交流を指すのか、市外なのか。整理することで新しい言葉が出てくるのではないか。

事務局

ここでの「交流」は、従来の地域内の交流と、地域外も含めた賑わいの両方を指している。今までは「する」スポーツに重点を置いてきたが、近年の流れから「みる」スポーツの重要性が増している。「みる」ことがきっかけになって「する」ことにつながる循環があり、この両輪という意味である。10年前はトップチームがなかったので、賑わいとスポーツが結びつきにくい方もいると思う。

座長

まずは、基本理念にコンセプトや方向性をしっかり出していくところを進めるべきだと思う。

委員

今後10年で人口が減り、スポーツをする人も減少する中で、誰もが参加しやすいというのはキーワードになる。その先に魅力あるまちづくりがある。1行目で多様な交流について記載し、サブタイトルで賑わいの実現へ、としてはどうか。

委員

「賑わい」という言葉は、商店街や市場のイメージが強く、スポーツとのつながりを感じにくい。

事務局

交流の一番小さい単位は、週末のソフトボールといった小学校区ごとの活動であると思う。例えば、パパさんソフトボールが終わった後に打ち上げに行くことも一つの賑わいであると思う。必ずしも大会や観客といったものだけでなく、もっと幅広い捉え方もあると思う。

委員

総合計画の「賑わい」という単語は入れる必要があるのか。入れる場合は、「賑わいのあるまち」とするよりも「賑わいのあるまち“へ”」とした方が理念としては良いと思う。

事務局

必須ではないが、上位計画とのつながりが薄くならないようにしたい。

委員

基本理念でいう「賑わい」とは、単に大人数がスポーツを楽しむことで活気がある状態にとどまらず、その先にある人々の気持ちの盛り上がりを目指すものであってほしい。

座長

スポーツをするだけでなく、見ること、支えることや心の問題も含めて重要という視点に立った基本理念であると理解している。再度検討してはどうかという意見があるので、事務局の方で検討してほしい。

委員

もう1点、基本理念の前書きで東京オリンピックに触れるのであれば、先日のパリオリンピックにも触れるべきではないか。

また、素案33ページの教育委員会との連携について、「学校部活動」を「学校運動部活動」に、「児童」を「児童・生徒」に、「体育科の授業」を「体育の授業」に修正してほしい。

事務局

東京オリンピックは60年振りに自国開催であったという点で、大きな出来事だったと思う。暗いコロナ禍の中において特別感があったと思う。

事務局

食育については、前回検討会の中で、子どもの体づくりの中で必要との意見があったため記載している。

委員

食育は幼稚園も含むため、「体育や食育の充実、運動の習慣化」の方が良い。

委員

小学生を「児童」、中学生を「生徒」という表現に統一すべきでは。

委員

「生徒」は、高校生も含む言葉である。

委員

高校生も含む取組であれば、「教育委員会」と書くと、市立高校だけが対象になってしまうので、市内の高校生という意味であれば、記載を改める必要がある。

委員

教育委員会との連携の部分だけを読むと、全小学生と、部活動に入っていない中学生を取組の対象にしているように見えてしまう。

事務局

取り組み内容、文言について教育委員会と調整する。

委員

運動部活動の地域移行などの問題を解決するための重要な要素として「人材の育成」があると思う。一方で、指導者の不足が問題になっている。今後、クラブチームを立ち上げたいが指導者が見つからないという人や、指導する場がないという人も出てくる。両者のマッチングを行っている自治体もある。

情報発信について、加古川市では「スポーツタウン加古川」として、スポーツ情報のプラットフォームを提供している。姫路市 LINE 公式アカウントで観光情報などが発信されているが、スポーツ情報の発信を強化するのであれば、スポーツ単独でトップチームやスポーツイベント等の情報を発信するのが良いと感じた。

事務局

自分がやりたいスポーツがどこでできるのか、指導者はいるのかといった情報を、ひめじスポーツコミッションが主体となり SNS で発信するなど検討したい。

座長

指導者の登録や派遣制度について、これまでに兵庫県の方で様々な取組をされてきたが、課題が多く実現に至っていない。例えば、指導者はボランティアの扱いだが無料というわけにはいかない。難しい問題であると思うが検討してほしい。

委員

スポーツクラブ 21 の活動を目にする機会が多いが、どこのクラブも世話をする人が高齢化してきている。参加人数も減っておりさみしいと感じる。

先日、地域住民から、小学生が道でキャッチボールして危ないとの問合せがあった。どこの公園も球技が禁止されているのでやる場所がない。素案には子どものスポーツの推進と記載があるが、場所がないという事実は認識いただきたい。

新体育館の整備について、民間の 24 時間営業のトレーニング施設数が増加しているが公的な施設はない。新体育館にはトレーニング施設を整備するのか。そ

事務局

の場合の使用料は高くなるのか。また、指導力の高い指導者も必要となる。

事務局

新体育館にトレーニングルームを設け、最新のトレーニング機器を設置する予定であり、またスタッフを配置する方向で進めている。新体育館の開館時間は9時から21時までなので、トレーニングルームの利用時間延長については検討中。施設使用料については、総合スポーツ会館の代替施設であるため、あまりにも高額な設定とならないよう検討している。

委員

すこやかセンターや広畑の図書館にはトレーニングルームがある。行政の役割を認識しながら検討していきたい。

座長

基本方針にある「生涯スポーツを支える人材の育成」は、市が育成を行うのか、資格を持った人を集めるのかで内容が大きく異なってくる。また、専門的な技術指導の資格を要するののかも含めて情報発信が必要であると思う。

事務局

行政としては、まず既存の競技団体の協力を得て取り組んでいくべきだと思う。

座長

指導者の紹介・マッチングにあたっては、資格以上に指導者の資質が問題であると思っている。上級の資格を持っているから問題ないとはいえない。

委員

なんらかの判断基準が必要だが、資質は永遠の課題であると思う。研修制度などの仕組みづくりが大事であると思う。実際やるとなると難しいと思う。また、一般の方に対してどのように手を差し伸べていくかということも課題である。

委員

JFA（公益財団法人日本サッカー協会）においても、ライセンス取得者がハラスメント問題に関わる事案が発生したため、ウェルフェアオフィサーという中立な視点を持ったスタッフをクラブごとに1名配置することになった。コンプライアンス研修の実施等、ガバナンスの問題に注力し始めたところである。指導者の資質は大きな問題であると考えている。

委員

単に時間があるから指導するということにはならない。地域指導となるとボランティアという立場であると思うが、お金の問題も考えていかななくてはならない。

事務局

指導する人材の確保・育成というテーマは、基本方針「競技スポーツの推進」に入れたいのか。

委員

基本目標2は賑わいという位置づけのため、体系図には記載していないが、素案49ページに記載している。他都市では、大学の人材を活用しているケースが多い。本市でも、複数の大学と包括連携協定を結んでおり、スポーツ分野も入っている。問題山積ではあるが、大学人材も活用できる可能性はあると思っている。

事務局

市立テニスコートをよく利用するが、料金が低廉でありがたい。安いので市外からやって来る人もいる。これも気軽にスポーツができる一つだと思う。

委員

素案では「障害者スポーツ」という言葉を使っているが、この言葉について皆さんの意見を聴きたい。モルックやパラリンピック競技になったボッチャなど、障害者もしやすいが障害者以外の人も楽しむことができる。ユニバーサルスポーツという言い方に置き換えるべきか。

委員

「誰もが」という観点でもユニバーサルスポーツの方が良いと思う。

委員

ユニバーサルスポーツは、国籍、年齢、性別、障害等の有無にかかわらず、という意味があるので賛成する。

事務局

障害者スポーツという言葉自体、障害者がするスポーツというイメージがある。障害者だけがするものではないと思う。高校でもブラインドサッカーをしたりする。計画でいう「障害者スポーツ」が、障害者を含む誰がやっても良いスポーツを指すのであれば、ユニバーサルスポーツに置き換えるべきであると思う。

座長

福祉の分野も関連してくるので、市全体としてどのような定義で計画に記載す

るか検討したい。

まとめると、

- ・「第1期計画の評価」は、「取組」として方向性を示す。
- ・基本理念の再検討。総合計画をベースにしつつ、「誰もが」の観点を追加する。
- ・教育委員会との関係を整理。特に運動部活動の地域移行は、喫緊の対応となるので教育委員会と連携する。
- ・パリオリンピックがもたらした影響を踏まえて記載を検討する。
- ・人材の育成や養成について、スポーツ推進の立場で何をしていくのか。資格、資質の問題は難しい。判断基準が必要である。
- ・スポーツクラブ21などの現状として、参加者が減少している。今後どのような方針で進めていくか。関係機関と協力しながら、少子高齢化社会の中でのスポーツ推進を図っていくことがこの計画の中にも必要である。

という意見等があった。

事務局

第3回検討会の日程、後日連絡

3 閉会 (12:05)